

網走市都市機能誘導構想

提言書

令和6年2月20日

網走市都市機能誘導構想検討協議会

目 次

1. 網走市都市機能誘導構想検討協議会設立の背景と経過	1
2. 提言	2
3. 今後について	6

1. 網走市都市機能誘導構想検討協議会設立の背景と経過

(1) 協議会設立の背景

① 網走市立地適正化計画の策定

網走市では、20 年後の将来を見据えて令和 4 年 3 月に「網走市立地適正化計画」を策定しました。

立地適正化計画では、都市機能（まちの基幹となる行政、保健福祉、教育・文化、医療、金融および観光交流の機能）を都市機能誘導区域に積極的に誘導（すでに区域内にある都市機能は区域外への転出抑制）することとされています。

② 情勢の変化

都市機能誘導区域に誘導する施設のうち、行政が管理する施設において今後 20 年以内に更新時期を迎える施設が複数存在しており、各官庁の判断において、それぞれの施設ごとに移転・建替えが進められることとなります。これは 20 年先までの間に都市機能誘導区域内において都市機能が個別・分散しかねない状況にあると言えます¹。

また、北海道横断自動車道網走線女満別空港～網走間の計画が進められており²、令和 5 年 12 月には網走市に接続する概略ルートが選定されました³。

③ 協議会設立の目的

都市機能誘導区域内に、行政、保健福祉、教育・文化、観光交流の「都市機能ごとの集約エリア（ゾーニング）」を示すことで、上記の情勢に即した都市機能誘導区域の運用を目指します。

(2) 経過

網走市を事務局とし、学識経験者、市内各団体及び公募市民で構成される協議会を設立しました。第 1 回協議会を令和 5 年 7 月 3 日に開催し、参加された委員の方からゾーニングに関する様々な意見をいただきました。その後、第 2 回協議会を令和 5 年 10 月 10 日に開催し、第 1 回協議会の意見をもとに作成された都市機能誘導区域のゾーニング（案）への意見が交わされ、本書を作成し、関係機関へ働きかけが必要であると示されました。

¹ 「網走市内における行政が管理する施設の状況」より[別冊-2-]

² 令和 4 年「北海道横断自動車道網走線道路計画に関するアンケート」より[別冊-4-]

³ 社会資本整備審議会 道路分科会第 35 回北海道地方小委員会より[別冊-6-]

2. 提言

(1) 協議会における議論の方針

「持続可能なまちづくり」「防災まちづくり」「にぎわいまちづくり」の3つのキーワードに基づき議論を行いました。

以下に、キーワードの考え方を示します。

① 持続可能なまちづくり

今後の人口減少下の都市経営を考慮し、対象施設の再編にあたっては、施設の集約化・複合化による効率性の確保や、既存施設・公的不動産の有効活用による無駄な支出の抑制など、持続可能なまちづくりをめざすこと。

② 防災まちづくり

自然災害が頻発する中、対象施設の再編にあたっては、老朽施設の更新や既存施設の有効活用による耐震性の確保、施設の移転・集約の際のハザード状況を踏まえたリスクの低減などにより、災害に強いまちづくりをめざすこと。

③ にぎわいまちづくり

オホーツク地域の中心都市として、市民が集い、交流人口・関係人口の拡大にも寄与する魅力的な都市拠点の形成を図るため、施設の再編にあたっては、立地する地域との機能連携を念頭に置きながら、必要とされる交流機能や利便機能を備えるなど、全体としてにぎわいのあるまちづくりをめざすこと。

(2) 都市機能のゾーニングの方針

それぞれのゾーンごとに設定方針を示します。

① 行政ゾーン

- ・行政施設には、市民や観光客が日常的に集い、憩えるような空間として活用されるよう、一般利用者向けに施設の駐車場や共用部分（食堂、テラスなど）が開放されるよう働きかけるべきです。これらを期待し、行政機能を Apt.4 やみなと観光交流センターなどと近接させるよう設定します。

② 保健福祉ゾーン

- ・保健センターの一部の機能が市役所新庁舎に統合されることにより、既存の保健センターに生じる空きスペースは有効活用されるべきです。このため、既存施設の有効活用を想定した区域設定とします。

③ 教育文化・交流ゾーン

- ・教育文化機能を持つ施設は、図書館や社会教育施設が併設されているオホーツク文化交流センター（以下、エコーセンター2000）の近郊に集約、複合化することが望ましいと考えます。このため、エコーセンター2000 近郊に区域を設定します。
- ・「網走かわまちづくり」と連携し、網走川沿いの河川管理用道路（散策路）を活用することで賑わい創出や地域の活性化を目指すべきと考えます。このためエコーセンター2000 からモヨロ貝塚館までの網走川左岸を区域とします。

④ 観光交流ゾーン

- ・「網走かわまちづくり」と連携し、網走川沿いの河川管理用道路（散策路）を活用することで賑わい創出や地域の活性化を目指すべきと考えます。教育文化・交流ゾーンの対岸、網走川右岸を区域とします。
- ・北海道横断自動車道網走線が整備された場合、観光や物流、医療など様々な効果が期待されています。ゾーニングでは人的交流の活性化を目的として、市街地の入口に「観光交通ターミナル・交流広場」を設け、市内外の人が交流できる空間の整備が望まれます。この空間と Apt.4 が連携し、網走川右岸との交流を活性化させるべきです。

⑤ 留意事項

- 中心市街地の立地状況から、完全に浸水想定区域を避けた区域設定は難しいと考えます。このため、やむを得ずハザード内に施設を配置する場合は、ハード面（浸水などのハザードに耐えられる構造など）やソフト面（避難体制の整備等）のハザード対策が必要です。

（３）個別施設の誘導について

以下の個別施設については特に重要と考えることから、施設ごとに提言を示します。

【国の合同庁舎】

- 複数の国の官公庁において、施設の更新時期が近づいている状況や網走市の人口の推移を踏まえ、将来にわたって市内に官公庁の出先機関が立地しつづけることが望ましいと考えます。官公庁の施設の集約化や行政機能を誘導する観点から、国の官公庁の入居先となる合同庁舎を、都市機能誘導区域に誘致すべきです。合同庁舎は行政施設であるため行政ゾーンに配置することとし、さらに、施設の設置には一定の敷地規模が必要なことから、市庁舎移転跡地が適当であると考えます。

【区域外における既存施設の利活用】

- 北海道が所有する旧網走高等看護学院跡地は、都市機能誘導区域外であることから当協議会が設定するゾーニングの対象範囲外であるものの、比較的新しい施設であるため、利活用に向けて働きかけるべきです。

これらの設定に基づき、次ページに都市機能誘導ゾーニング図を示します。

都市機能誘導ゾーニング図

